



学校法人  
鎌倉女子大学

## 『沈黙』について

### — 「高 - 大連携授業」の生徒の質問から

昨年度の秋から冬にかけて、高等部2年生対象の「高 - 大連携授業」を担当しました。この授業のねらいは、高校時代に大学の授業を受講し、そのレベルや雰囲気を経験する一方、目下の高校の学習のモチベーションを高めようというところにあります。

私の授業は、「人間と倫理」、その一コマとして「カントの道徳論」を取りあげました。カントという人は、近代を代表するドイツの哲学者で、恐らくこの人ほど道徳というものを峻厳に捉えた人はいなかったでしょう。

カントの問題意識は、人間にとってどんな時・どんな所・どんな場合にも普遍的に善、つまりどこから見ても善い生き方だといえる行動の基準を探し出そうというものでした。人間は、自分の利害と関係ない時・所・場合にあっては正論も吐けるし、善を為すことも出来ます。しかし、少しでも自分の利害と関わる事態が生じたりすれば、たちまち手のひらを返したように振る舞い始めるのがしばしば見聞きする人間の哀れな姿ですし、まして自分の命に関わるような場面に際会しようものなら、誰しも「自分可愛や」、それが人間の普通の感情といったものでしょう。しかし、彼は、こう説くのです。そのような感情に引きずられる傾きを自ら断ち切り、どんな時・どんな所・どんな場合にも理性の主体として「汝、善を為すべし」と。ですから、このカントの言い方は、私たちが生きる状況が厳しくなればなるほど、切実な命令として私たちに迫ってくるわけです。

この話をした時、ある生徒がこういう質問をしました。「先生、カントがいうように、そうした行為が出来るのが立派なのはわかりますが、それでは江戸時代の隠れキリシタンが踏み絵を踏まされるような場合、私たちは、どのように行動したらよいのでしょうか。

その時、私は、感心しながら、この生徒たちとちょうど同い年の頃、遠藤周作さんが書き下ろした小説『沈黙』が出版され、非常な印象と感銘をもって読んだことを思い出しました。

『沈黙』は、「人間の弱さ」と「神の沈黙」をテーマにした作品でした。日本に布教にきたカトリックの神父が、自分を慕い、教えを信じ、殉教していく信徒たちの姿を目の当たりにして、苦しみ、悩み、自分はどうか行動すべきかを神に問いかける、しかしそれにも拘わらず神は押し黙り、そして自らは棄教していくのですが、その時その神父が見出すものは・・・、といった内容でした。

遠藤さんは、こう書いています。「あなたはなぜ黙っているのです。この時でさえ黙っているのですか」。

このテーマは、『旧約聖書』の「詩篇」の第22篇「わが神、わが神、なにゆえわたしを捨てられるのですか。なにゆえ遠く離れてわたしを助けず、私の嘆きの言葉を聞かれないの

ですか」から第31篇「わたしは、わが魂をみ手にゆだねます」にかけての「祈りの言葉」を起源とし、『新約聖書』に描かれる十字架上のイエスの「祈りの言葉」に連なるユダヤ・キリスト教最大の宗教テーマとっていいでしょう。

折しも、この授業は、ハリウッドの巨匠と呼ばれるマーチン・スコセッシ監督が遠藤さんの『沈黙』を映画化したことが話題になり始めていた頃のことでした。

スコセッシという人は、かつて『最後の誘惑』という作品を撮った監督で、それは、イエスが十字架上で過去を回想し、もっと別な生き方はなかったのか、弟子のマグダラのマリアと結婚し、子どもをもうけ、幸せな生活を送ることも出来たのではなかったのか・・・、といった誘惑に晒される、そんな内容でなかったかと思います。

この映画は、どこかの帰り、親しくさせて頂いた倫理学者の故吉沢伝三郎先生と一緒に観て、仏教徒である先生も私も、その内容をごく自然に受け入れたことを思い出しますが、キリスト教文化圏の欧米では、神のひとり子であるイエス・キリストがそんな誘惑に晒されて思い悩むとんでもないスキャンダルと、激しい批判を買ったものでした。

『沈黙』は、発表後4、5年して、篠田正浩監督が映画化し、学生の頃に友人と観た記憶がありますが、イタリア出身のスコセッシ監督がこれをどのように描くのか、何れ必ず観に行かなくては、と思っています。

授業の方は、親鸞しんらんの『歎異抄たんいしやう』に現れる「善人なおもて往生おうじやうをとぐ、いわんや悪人をや」などを紹介しながら、人間の罪をどう考え、人間の弱さをどう受け止めたらよいか、道徳や理性では解とけない難問があるということ、そうだとすれば道徳や理性の限界、つまりは人間の限界の自覚の先に見えてくるものは・・・、とはっきりとした答えを出さないままに終わりましたが、本当のところその答えは、生徒一人ひとりが自分の人生を通じて見出す他ないものなのでしょう。

※「往生」とは、仏の世界に救済されること。

[>前のページへ戻る](#)